



札幌市立大学大学院
看護学研究科
GRADUATE SCHOOL OF NURSING
SAPPORO CITY UNIVERSITY

Interview

Scene

03

札幌市立大学看護学部

猪股千代子教授

特集 健康な人、まちをつくる 自助・共助・公助が一体となって

健康の価値を考え 豊かな共助社会を

看護師としての長いキャリアの中で、病を得た人々の不安、苦悩、強さ、笑顔に数え切れないほど出合ってきた、札幌市立大学看護学部の猪股千代子教授。そこで培われた経験、哲学、愛。さらに、統合医療の世界に踏み入ることで看護の価値を再確認したと生き生きと語る姿は、猪股教授自身が人生の、そして健康の意味を再発見したようにまぶしく映る。そうした看護の心や健康の意味などを日々考え、実践することには、私たち一市民が健やかな人生を歩むためのヒントも数多くちりばめられていた。

いのまた・ちよこ

東北大学医療技術短期大学部卒業、玉川大学文学部教育学科卒業 学士（文学）、東北大学大学院経済学研究科修了 修士（経営学）。東北大学病院勤務を経て、宮城大学助教授、札幌医科大学教授を歴任。2012年から札幌市立大学看護学部・同大学院看護管理学教授。（一社）日本看護管理学会、（公社）日本看護科学学会、（一社）日本統合医療学会、NPO法人日本医療マネジメント学会、日本音楽療法学会などに所属。

——統合医療における看護の役割とは、どのようなものですか。

看護では、生活全体から健康を見直していくための支援と「健康や病気について知りたい」という学習ニーズを満たすための支援も重要です。その両面が、統合医療の考えに基づくと看護ではより際立ってくると思います。

重い病気になると多くの人は、生き方を振り返り、命とは何かを考え始めます。そうした時、一人で生きる意味を見つめ、心に強くとどめることは難しいものです。話に耳を傾け、共にこれまでの人生を見つめてくれる伴走者のような人がいると、自分の心も整理しやすく、新たな気付きを得られるチャンスも広がっていきます。

家族や友人など、心を開いて何でも話せる人。看護師にはその方たちと同じような役割もあると思っています。それまでの生き方を患者さん自身が肯定し、人生に意味付けをする、その過程に寄り添うことがとても大切です。それ



が、新たな人生へ踏み出す大きな力になるからです。

——生きてきた意味、これから生きていく意味を認識することが健康に関わると。

対話を通して自分の人生の物語を誰かと共有する、人間はそうしたことで生きる力を得ていくものではないでしょうか。と言っても、必ずしも誰かの存在が必要とは限りません。大切なのは、自分は一

人ではない、周囲の人や大いなる自然など、たくさんのものとながって生きていると実感できるかどうかです。

多くの患者さんと接してきて、そうして得た心の安らぎや見守られているという安心感が、備わっている「治る力」を取り戻していくように感じてきました。

健康になる意味や価値を見つめる

——人間に内在する治る力が引き出されるわけですね。

そうやって得られていくのが、全人的な健康だと考えています。先日、医療者ではない方からこんなお話を伺いました。病気にはなりたくないけれど、特に症状がなければ、今以上に健康になりたい人はあまりいないと思う、と。

まずは、健康になることにどのような意味や価値、良い面があるのかに気付いていただくのが大切なのですね。それがなければセル